

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	職員にて話し合いの上、理念を作り、それに気付きケアを行っている。玄関にも理念を掲げ、家族へも文書・口頭にて伝えている。また、事業所紹介時にも、理念を紹介している。理念についても内部研修を行っている。		
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	月1回のケア会議時に理念を唱和している。また、常時職員の目に入るようにスタッフルームに掲示している。内部研修にて理解をしている。		
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	玄関に掲げることを初めとし、家族への文書・口頭での説明をしている。パンフレットにも盛り込み、地域の方々、その他の見学者にも理念を広める事ができるようにしている。		
2. 地域との支えあい				
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	隣家が酒蔵で、敷地内の地蔵参りをしているため、よく声をかけていただいている。また、近くの神社やスーパーの買い物時、散歩時に挨拶を交わしたりしている。隣家の方や、スーパーの方が配達時に差し入れをしてもらえることが増えた。		こちらからも更に、挨拶や声かけをし、交流がもっと深まるように努力を続けたい。
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域行事(蔵開き・地域清掃・左儀長など)に参加している。また、地域清掃には、利用者と参加をしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6 事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	災害時等、独居高齢者・地域の方々が避難できるよう、施設を開放している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7 評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	昨年の外部評価後、職員全員に見直す機会を作った。また、外部評価の意味、外部評価をどう今後生かしていくようにしたら良いのかという事の話し合いをする機会を持った。		
8 運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回、市職員・家族代表・包括・民生委員・施設代表・管理者で行っている。資料にて報告・予定をし、意見交換にて貴重な意見をいただいている。また、その意見をすぐにサービスに繋げるようにし、次の運営推進会議で報告している。会議後は会議録を作成し、市への提出を行っている。特に事故については毎回、詳しい原因、対策を報告している。		
9 市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	医療加算に伴う医療行為など、分からない事を尋ねたりしている。また、市担当職員の方から色々な研修のお知らせを頂いている。勉強会にて講師として来ていただいた。		
10 権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	研修・勉強会等へ全員が参加し、理解を深めるよう努めている。入居者の家族の方から財産についての相談があり、成年後見制度の説明をし、窓口を紹介した。		
11 虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員は勉強会・研修に参加し、学ぶように努めている。常に、虐待が起こらないよう、職員間での意識ができています。また、職員間での注意ができており、防止できています。倫理についても研修の中に取り入れた。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>十分な説明の下、理解・納得されている。後に、質問があっても不安がないよう、十分な説明をしている。説明をする時は、2名は同席していただくようお願いをしている。</p>		
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>月に1回入居者常会を行い、意見交換、不満、苦情、希望を出せる場を作り、運営に反映させている。また、初め、家族むけに作った御意見箱だが、入居者も利用できるようにしている。</p>		
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>月に1回状況報告・写真・次月行事計画を郵送、または手渡しし、6ヶ月に1回個人預かり金報告を行っている。また、面会時には、必ず状況報告をしている。また、3ヶ月毎に、「ひだまり」と言う新聞を配布している。</p>		
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>玄関に御意見箱を設置している。また、入居時に本人・家族に対し、外部への苦情申し出先を文書にて渡し、説明をしている。家族会の際、家族間だけの意見交換の時間を作り、意見を出していただいたり、無記名でのアンケートにより、意見を出して頂いた。</p>		
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>いつの場面でも意見や提案を聞き、否定はせず、話し合いを持って反映できるように努めている。管理者で判断しかねるものは、運営者へ意見を出している。</p>		
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>要望があれば、極力、勤務の調整をし、対応している。特に時間のかかる病院の受診時で家族がいけない時など、職員での受診の支援をする際、調整を行っている。</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>1名の異動があったが、ダメージはなかった。1名離職したが、結婚だった為、利用者の理解もあり、ダメージはなかった。</p>		
5. 人材の育成と支援				
19	<p>人権の尊重</p> <p>法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している</p>	<p>採用は運営者に任せている。職員の能力を發揮できるよう、押さえつけるような職場にせず、自己表現・能力が發揮できるように努めている。また、職員一人ひとりの意見を大切に受け止めている。</p>		
20	<p>人権教育・啓発活動</p> <p>法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる</p>	<p>勉強会・研修等に職員全員の参加があり、人権尊重は常に意識をしている。</p>		
21	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>新人研修・経験の段階にあわせた研修に、多くの職員が参加できるように配慮して育成に取り組んでいる。新人研修マニュアル、内部研修においては、年間カリキュラムにて段階を追った内容の計画を立てた。</p>		
22	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>姉妹施設との合同勉強会、研修を2カ月ごとに行っている。三井福祉会内での相互訪問も盛んに行っている。(慰問訪問時の見学、文化祭、夏祭りなど)</p>		
23	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>ストレスの軽減になるように、個人の意見が言い易い環境に努めている。(職員間のコミュニケーションも良好を保っている)</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
24	<p>向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>問いかけをすることにより、気づきを持てるようにしている。また、怒るだけでなく、個人の良いところを褒め、やる気が出るように努めている。半年に1度の自己評価を行うことにより、自分を見つめなおす機会を作り、向上心を持てるようにしている。</p>		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
25	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>入居前の面接時に本人に一番困っていることを聞き、入居後も個人の話を随時聞き、受け止めることに努め、不安の軽減を支援している。</p>		
26	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>入居前の面接時を初めとし、入居後も面会時、電話など随時相談があれば受け入れる体制ができています。</p>		
27	<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>相談があれば、直ちに話し合いをもち支援につなげられるようにしている。</p>		
28	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>体験入居のサービスがあり、本人・家族が納得の上で、入居につながる様に体制が整っている。また、入居1ヶ月は環境に馴染むことを重要視し、家族の協力も得ながらサービスの円滑な継続に努めている。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
29	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>会話を大切に、喜怒哀楽が共有できるよう努めている。また、一人ひとりの特技を發揮する場をつくり、職員・入居者から学ぶように努めている。また、生活歴を家族や本人から聞き、会話に活かしている。特に園芸・習字に長けた方が多く、職員も学ばせて頂いている。</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
30	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えている関係を築いている	毎月の状況報告・次月の行事・計画・写真を郵送する他、電話時、面会時での状況報告をちょっとしたエピソードも交え話し、喜怒哀楽の共有ができるよう努めている。また、家族からの意見も言いやすい環境作りに努めている。看取りを行う際も、何度も話し合いを持ち、お互いに支えあえるようにした。		
31	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	家族間の関係は特に気を配り、第一保証人を中心にトラブルが起きないように努め、良い関係の継続ができるように支援している。次月の行事計画を郵送する事で、家族の行事参加をしてもらい、楽しみを共有していただけるように努めている。		
32	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	自宅より遠い方が多い為、家族や親戚・友人の面会を勧め、家族との外出も勧めている。また、遠距離の方への、電話をかけたり、手紙を出せるように支援ができています。遠距離の親族の方々から、とても喜ばれている。家族の宿泊も出来るようにしている。		
33	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	トラブルも発生する中、職員が中に入り、関係が悪化しないように努めている。一人に孤立しないように寄り添うように職員には周知されている。		
34	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退居後の生活の場へ顔を見せに行ったり、施設での行事があるときなどは誘いをかけ、遊びにきていただいたりしている。また、退去後のケアマネジャー・ソーシャルワーカーへの連絡をとり、スムーズに生活が送れるよう支援している。		
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
35	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	随時、希望があれば取り入れられるように検討し、把握に努めている。構語が出来ない方には、表情で読み取る様にし、本人本位になるよう努めている。ケアプラン作成時には、必ず本人の意向を取り入れている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
36	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	情報提供により、以前のサービス経過を知り、会話の中、家族の話などより生活暦等把握するよう努めている。センター方式を徐々に取り入れており、生活歴を以前より詳しく把握することができている。		
37	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	入居当初に生活パターンの把握をし、変化に応じ随時パターンを把握し、その中から心身状況、有する力を深く把握できるように努めている。		
38	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	必ず、本人と家族の意向を聞き、意見を反映した介護計画が作成されている。特に本人とは十分に話し合いを持ち、目標設定を立てている。主治医やリハビリの方を含め担当者会議も持つよう努めている。		
39	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	状況変化時には、見直し前であっても、早急に本人・家族・関係者との話し合いの上、現状に即した介護計画の見直しができている。		
40	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日誌の他、個人ケース記録に記入し、職員間の情報の共有ができている。また、ミーティング時の意見などは連絡帳を利用し気づきや工夫の共有ができ、その後の実践・介護計画へ活かされている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
41	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	体験入居、入居者家族の宿泊、外出時の車椅子の貸し出しをしている。訪問理美容、訪問歯科、逆ディサービス、ドライブ、受診の支援を行っている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
42	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	民生委員・ボランティア・学校との協力を得ている。年に2回の避難訓練(昼間・夜間想定)には、消防の立会いを行っている。		
43	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	地域のサービスは受け入れに条件があり、参加が難しい状況。逆ディサービスを数回行った。習い事を支援したく、交渉したが受け入れていただけなかった。		民生委員・包括グループホームでも利用できるサービスがないか働きかけたい。
44	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	入居が困難だった方への支援として包括に相談し、本人や家族が不安にならないように共同した。		
45	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力病院を持ち、適切な医療を受けている。また、受診の支援をしている。その際、個人情報同意書・受信に関する委任状を家族から頂病院に提出し、問題が生じないようにしている。必要に応じ、家族と共に検査結果などを聞き、本人、家族、主治医、職員のつながりを築いている。		
46	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	認知症専門の病院の受診もしており、相談等行っている。協力病院も同様、相談できる関係が持っている。個人情報同意書・受信に関する委任状を家族から頂病院に提出し、問題が生じないようにし、円滑に支援している。		
47	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	看護職員が2名おり、看護師による、健康チェックをし、看護日誌に記録している。健康相談ができる体制をとっており、医療活用に繋がっている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
48	<p>早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		
49	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>		
50	<p>重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>		
51	<p>住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		
<p>. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1) 一人ひとりの尊重</p>			
52	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
53	利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	話を聞くことを重要視した支援を行っている。話を聞き、自己決定に繋がるよう促し、本人との話し合いの上、納得がいくよう支援している。可能な方には本人に目標を自己決定してもらっている。		
54	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	生活のリズムを支援しながらも、基本的には個人のペースを大切にできるよう支援できている。		
へ				
55	身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	ヘアスティーション利用により(月1回)本人希望の髪型、髪色を支援できている。身だしなみは季節に合ったものを自分で選べるように声かけをしている。女性は朝・外出時、化粧をすることを勧めており、入浴後はマッサージをすることもある。男性は毎朝の髭剃り、整髪、おしゃれを支援している。		
56	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	自ら、注ぎわけ、配膳、片付けをされる方が数名おり、自分でスムーズにできるように、職員が支援している。食事中はテレビを消し、耳障りにならない音楽を長し、会話を楽しんで食事をしている。		
57	本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	医師より指示がある方は、おやつを本人との話し合いの上、職員にて管理している。特別、医師より指示がない方はタバコ・飲み物・お酒・菓子等、本人希望により支援している。ただし、火の管理、喫煙場所は本人・家族の了解を得、職員で管理している。		
58	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄パターンを把握し、オムツ外し、失敗の軽減が支援できている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
59	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	必ず、本人に入浴希望の有無・希望入浴時間を確認している。ゆっくりとした入浴、毎日の入浴、希望時間帯の入浴(夜間入浴も含む)はとても喜ばれている。ミント風呂、みかん風呂、ゆず風呂、炭風呂等、季節を感じるができる入浴を支援している。		
60	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	休息は本人の体調や希望に合わせ、リズムが乱れないように支援している。成果もあり、皆、夜間安眠もできている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
61	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	余暇活動や生活の中に個人が得意としていたことを毎日の中に入れていく。また、くもん学習療法により、張り合いや喜び、意欲を見出している。漬物作りなどでは、特に生き活きとされています。		
62	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人が管理している方もいるが、紛失時に困らないようにいくら持っているか把握している。1万円までは預かることができ、本人希望時に自由に使用できる。領収書・収支内容はいつでも提示できるようにしており、6ヶ月に1回家族への定期提示を手渡し、郵送にて行っている。家族の諸事情により、例外として、2万円まで預かることができる。		
63	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩・買い物・ドライブ等、希望に添って行っている。また、常会にて外出先の希望を聞き、計画に反映している。		
64	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	入居者常会にて外出希望を聞き、計画を立てている。個人での希望は家族の了解の下、計画を立てている。次月行事計画を郵送し、参加可能な家族には入居者と共に行事に参加していただいている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
65	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望により電話を使用していただいている。手紙の支援もしており、写真を入れる配慮もしており、大変喜ばれている。		
66	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	6:30～21:00まで玄関を開けており、夜間の訪問にも対応している。居室の他、共有の和室を談話室としてゆっくり過ごしていただけるようにしている。特に、土日の面会が多い。		
(4) 安心と安全を支える支援				
67	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修・勉強会に参加し、理解を深めている。常に拘束にならないだろうかと、問いかけをし、職員間でも随時話し合っており、ケアに取り組んでいる。また、研修の中で倫理についても取り入れた。		新任職員もあり、今後も勉強会・研修を続けていく。
68	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	居室・窓・ベランダ・玄関は就寝時以外は鍵をかけていない。ただし、居室は内側から鍵が掛かるようになっており、本人の意思により、内側から施錠される方もいる。		
69	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	さりげない声かけ、休息時の巡回、職員同士の声かけにより、所在把握に努めている。夜間は1時間毎の巡回、廊下にモニターの設置にて、広範囲の把握に努めている。		
70	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	文字を大きく表示することにより、何であるか識別しやすいように工夫している。はさみなどは、認知症の進行具合に応じ、職員で管理している。自分で持っている方は何をいくつ持っているのか把握している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
71	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	ヒヤリハットを活用し、ミーティング・会議時に話し合い防止に努めている。事故が起こったら直ちに防止のための話し合いを行っている。個人・時間・場所・事故の種類別の統計を取り、事故防止に取り組んでいる。また、マニュアルを作成しており、勉強会にて学び習得に努めている。筋力体操を取り入れ、転倒の軽減に繋がった。		本人の状態変化に応じ、今後とも事故防止に努めたい。
72	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	マニュアルを作成しており、勉強会にて、訓練を行った。また、消防署による、救急法を年に1回、研修の位置づけとして行っている。		新任職員もあり、今後も勉強会・研修を続けていく。
73	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回の避難訓練を行っている。区長や民生委員・隣家にも協力してもらえるよう、お願いをしている。また、当施設も災害時の避難場所に開放していることも、地域に知らせている。		
74	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている	入居時に考えられるリスクを家族・本人に話している。(共同生活であるが故の、トラブル等)リスクが現実となりそうな時は、本人が納得できるように配慮し支援している。また、状態の変化においてのリスクもその都度、説明をしている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
75	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日、定時のバイタルチェックと申し送り、記録にて、異変の早期発見に努め、異変ではないかと思われるときは、看護師に診てもらい速やかに、医療へ繋がるように対応している。		
76	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	看護師の管理の下、職員は薬の目的、副作用、用法、要領を理解している。薬の変更があった時は、速やかに全員に報告し、体調に変化がないか記録をしている。特に必要なものには、24時間の記録をしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	水分・運動等に配慮し、主治医・看護師の指示により、便秘薬の服用を支援している。排便のチェックをしており、便秘・下痢にならないようにしている。		
78	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後の口腔ケアを支援しており、自分でできないかたも援助にて清潔を保っている。夜間は義歯を職員にて預かり、洗浄剤にて清潔を支援している。歯科往診があり、無料検診を行っている。		
79	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	本人が完食できる量を把握し、調整している。調理師により、バランスのとれた食事の提供ができたおり、水分量も確保できている。食材も大きさ・温度・種類を本人の状況、力、希望に応じたものになるよう支援している。また、誕生日には、本人の希望食をお出ししている。		
80	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	マニュアルを作成し、勉強会にて理解・把握している。消毒・マスク・ゴム手袋・次亜塩素酸消毒・アルコール消毒等、繁殖時だけでなく、常時実行している。		
81	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食材、器具等は調理師により管理している。普段使う布巾などは、塩素消毒・アルコール消毒・乾燥機使用により食中毒予防をしている。また、食材は毎日購入し、新鮮なものを提供している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
82	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	花や木を回りに植えており、柔らかな雰囲気工夫をしている。また、希望者は出窓に植物を置き、育てている。利用者に頂いた鉢物は本人の居室より見えるところに地植えを共に行い、大切に育てている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	普通の家のような空間ができるように匂い(消臭)・音(無駄に大きな音・声を出さない)・光(カーテン・レース)の配慮をしている。幼稚にならないように、季節に応じた写真・書道の作品などを飾っている。カレンダーを手作りにし、より季節感を出すよう努めている。玄関のカウンターの額も毎月、入れ替えている。		
84	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファの位置をずらすことにより、少人数になれたり、和室・ベランダ・庭を自由に利用できるようにしている。		
85	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族には新しい物ではなく、使い慣れたものを持ってきていただくように依頼している。仏壇や壺を持参されている方も数人いる。		
86	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがなく換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	換気扇を常時つけており、空気の留まりがないようにしている。また、エアコン使用時以外は窓を開け、風を感じることに、寒暖を感じてもらい、季節を感じてもらっている。換気により、空気がよどまない様に気をつけている。浴室も入浴時に温度差がないように配慮している。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
87	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	シルバーカー・歩行器・車椅子が安全に使えるように、家具の配置を工夫し、自立できるように支援している。また、状況の変化に応じ工夫をしている。いつまでも、自力盥洗ができるように、ポータブルトイレの使用もある。その際、滑らないように、滑り止めをひく等の工夫をしている。		
88	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	十分に話を聞く体制をとり、混乱のない様に配慮し、自立できるように支援することに努めている。トイレの表示、電気が気になる方には電気の表示、カレンダーには今日が一目でわかるような工夫をしている。		
89	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	自由に散歩できる外回りがあり、ベランダからも、植物を楽しめるようにしている。本人が頂いた植木を花が終わったら外回りに植え、楽しまれている。		

. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
項 目			
90	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の2/3くらいの	
		利用者の1/3くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
91	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に1回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
92	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
95	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
96	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
97	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と	
		家族の2/3くらいと	
		家族の1/3くらいと	
		ほとんどできていない	

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
98	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		ほぼ毎日のように
			数日に1回程度
			たまに
			ほとんどない
99	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		大いに増えている
			少しずつ増えている
			あまり増えていない
			全くいない
100	職員は、生き生きと働いている		ほぼ全ての職員が
			職員の2/3くらいが
			職員の1/3くらいが
			ほとんどいない
101	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
102	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		ほぼ全ての家族等が
			家族等の2/3くらいが
			家族等の1/3くらいが
			ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

利用者の生活歴を知り、サービスに反映できるように努めています。ケアプランは必ず、本人と家族に要望を聞き、一緒に考えるようにしています。そのことで、本人も目標ができ、日々の生活に活気が出てきている方が多く見られます。また、事故分析に力を入れ、事故防止の筋力運動を始め、転倒事故の減少に繋がってきました。現在、看取りを行っている方がいます。看取りを行うことで、医療・看護師・リハビリ等、他事業所との連携もしっかり取れており、御家族の方も安心していただける体制ができています。ご家族も大城の里に宿泊ができるように部屋を準備しており、遠方からの御面会の方も安心して来ていただけるよう、いつでも準備が整っています。面会時間も特に決めておらず、ご連絡いただければ深夜でも対応いたします。地域の中で、利用者の方が最後まで、安心して暮らしていけるよう、職員がサポートいたします。利用者の方々や職員も、地域の中の一員として生活ができる様、日々努めています。